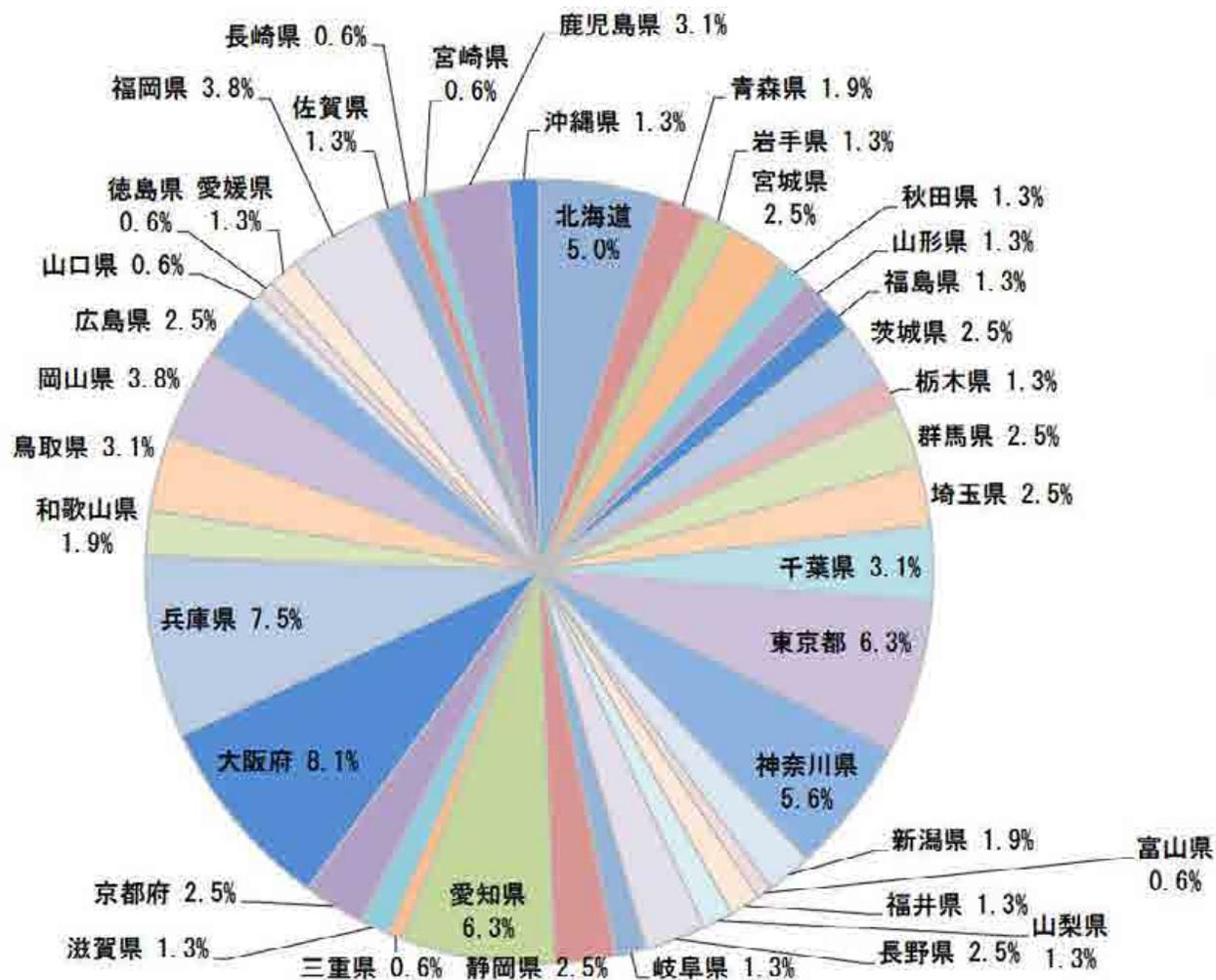


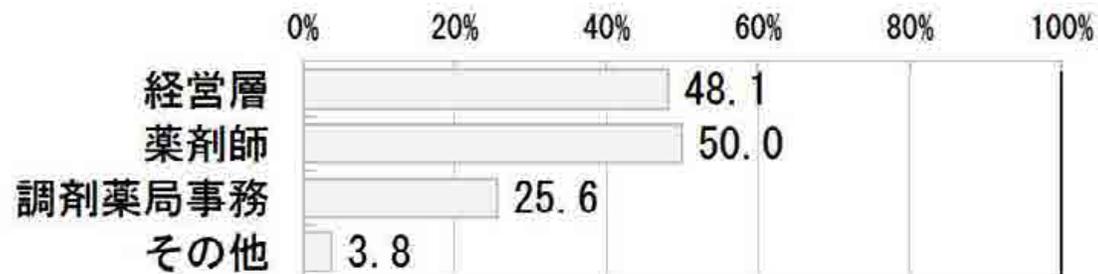
**(2) 中小薬局の現状および調剤委託に係るニーズ  
会員企業による薬局へのアンケート結果について**

# アンケート対象：薬局勤務の160人 2021年10月インターネット調査実施

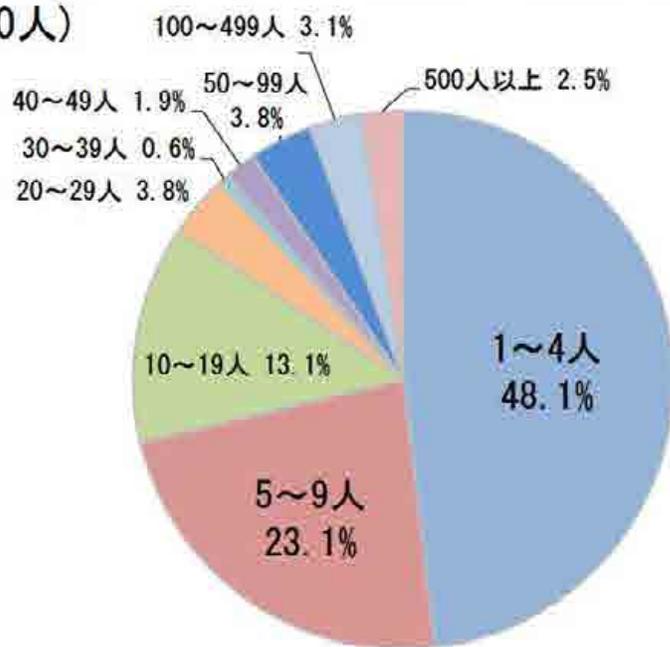
■薬局の都道府県分布(対象:160人)



■回答者の薬局での役割(複数選択)(対象:160人)



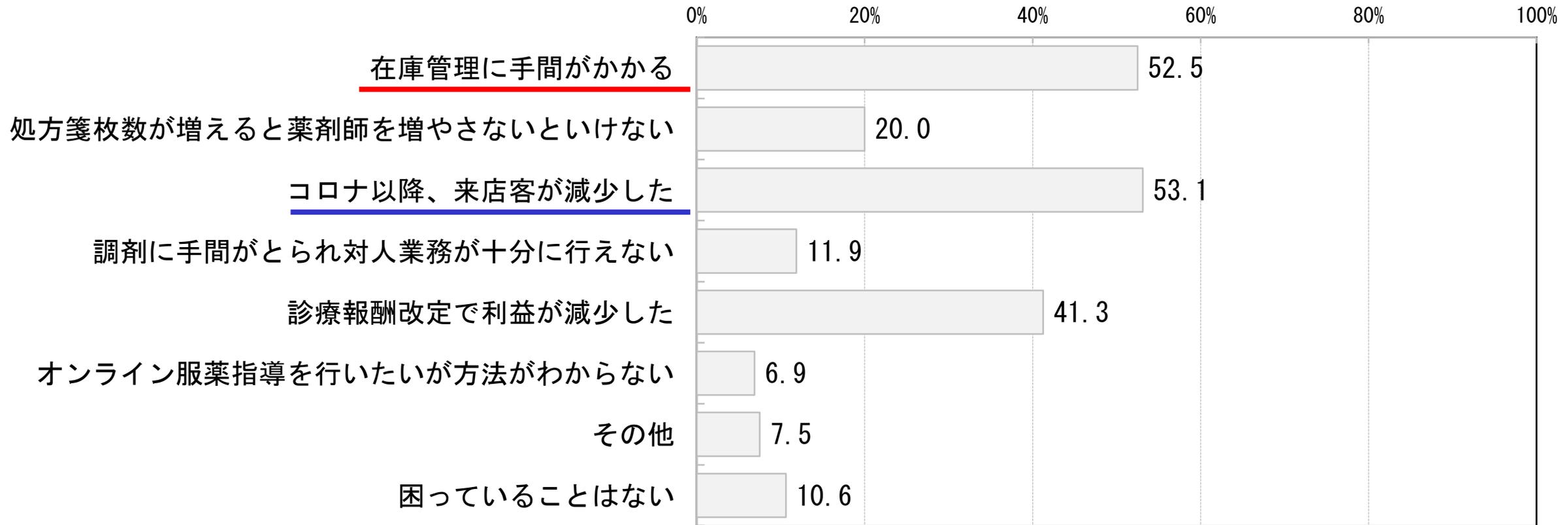
■薬局の従業員数(チェーンの場合は全店舗の従業員数)(対象:160人)



✓ アンケート対象は**広く全国に分布**。

✓ 従業員数が**1-4人のところが48.1%、5-9人が23.1%**と、**中小薬局が多くを占める**。

■現在の調剤薬局業務で困っていること(複数選択)(対象:160人)

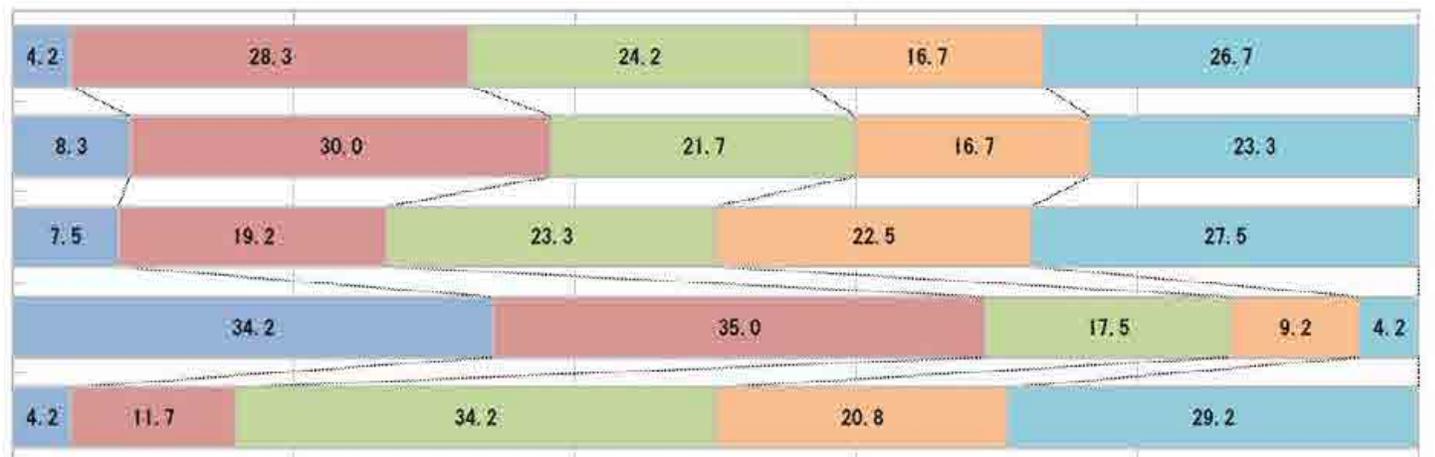


✓ お困りごとの2大トップは来客数の減少(53.1%)と**在庫管理の手間(52.5%)**。

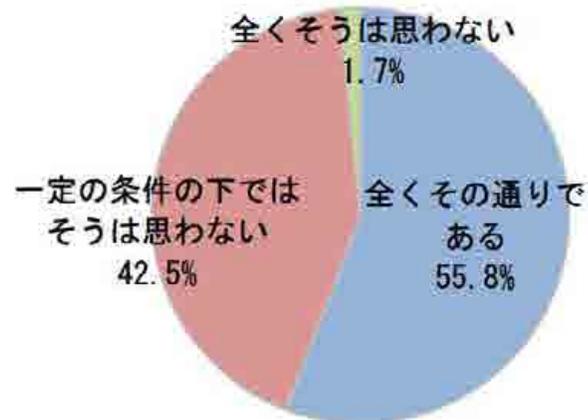
## ■調剤業務を外部委託することについて、どう思うか(対象:160人)

■とてもそう思う ■どちらかといえばそう思う ■どちらでもない ■どちらかといえばそう思わない ■そう思わない

対人業務に集中できるようになると思う  
 薬剤師の業務が効率化されると思う  
 調剤報酬が減っても全体として利益が増えれば委託したい  
 外部業者が調剤した薬を患者様に服用してもらうのは不安を感じる  
 一包化の必要がある際は委託したい



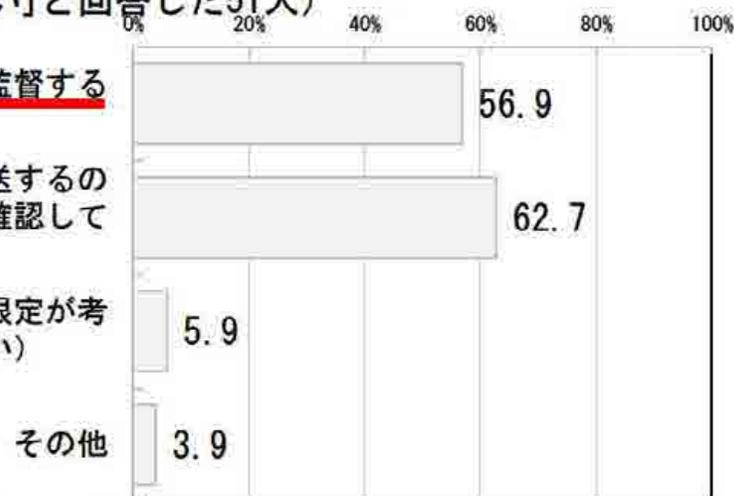
## ■薬剤師の目の届かない外部で取り揃えた薬剤を患者に提供すべきではないとの考え方についてどう考えるか(対象:経営層および薬剤師の120人)



## ■具体的にどの条件があれば外部委託が可能か(複数選択)

(対象:「一定の条件の下ではそうは思わない」と回答した51人)

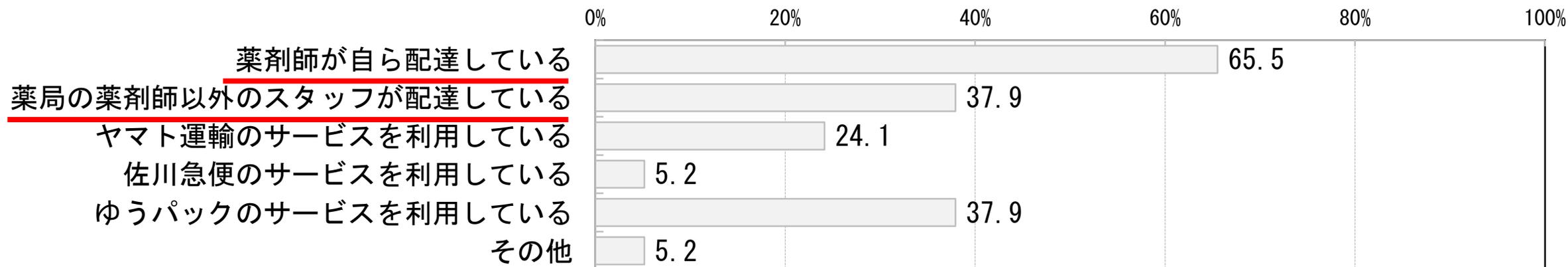
薬剤師が必要に応じて指示を行うなど、委託先を監督する責任を負うこと  
部分委託に限定すること(委託先が患者に直接配送するのではなく、一度薬局に納品の上で薬剤師が現物を確認してから配送すること)  
 委託する薬剤の種類を限定すること(どのような限定が考えられるでしょうか。具体的にご記入ください)



✓ 調剤委託に関しては、**否定的な考えが5割を超え、「外部業者が調剤した薬を患者が服用するのは不安」という意見が7割近く**を占めた。不安を取り除くための対策として、「**部分委託(薬剤師が確認後に配送)**」が**62.7%**、「**薬剤師が委託先の監督責任を負う**」が**56.9%**と高割合を占めた。

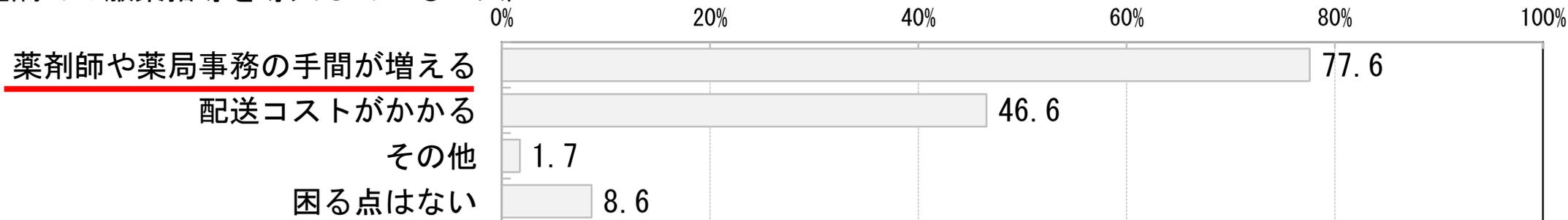
### ■遠隔で服薬指導した際の処方薬の配送方法(複数選択)

(対象:遠隔での服薬指導を導入している58人)



### ■遠隔で服薬指導した際の処方薬の配送で困る点(複数選択)

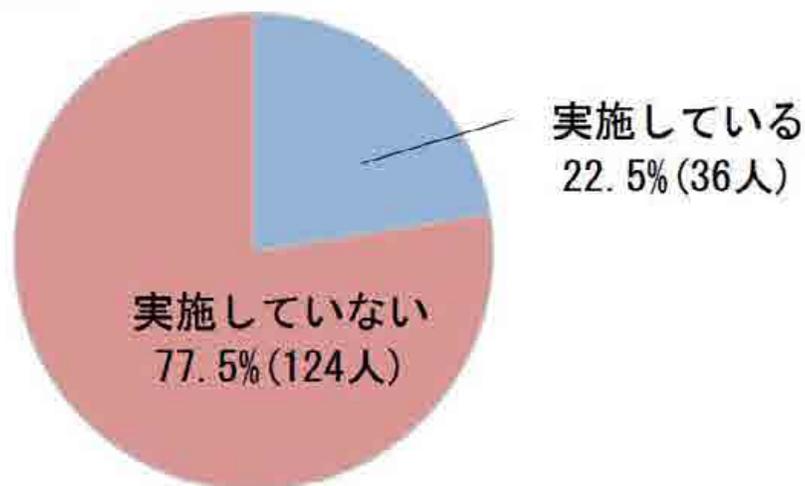
(対象:遠隔での服薬指導を導入している58人)



- ✓ 遠隔で服薬指導を行っているという58人のなかで、**処方薬を薬剤師が自ら配達しているケースが65.5%、薬局の非薬剤師が配達しているケースが37.9%。**
- ✓ **8割弱が、配送作業が薬剤師や非薬剤師の手間になっていると回答。**

# 介護施設に関する項目

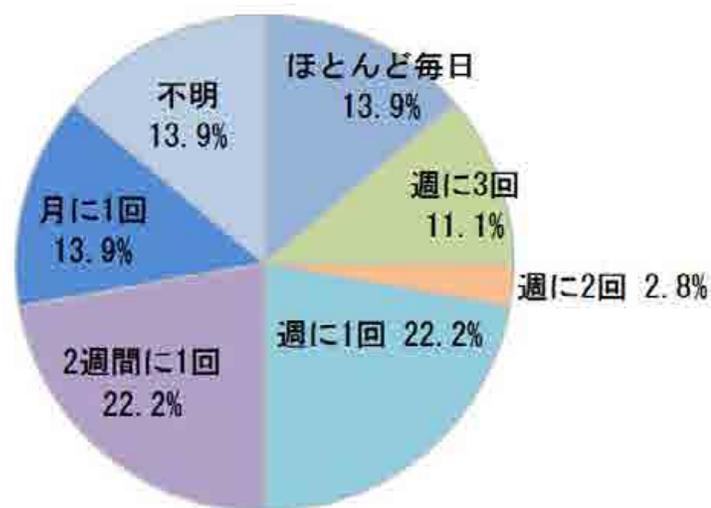
■ 介護施設向けにまとめて薬の処方や服薬指導を実施しているか (対象: 160人)



■ 介護施設から応需する処方箋枚数の割合 (対象: 実施者36人)



■ ドクター同行による往診・薬剤お届けのために介護施設を訪問する頻度 (対象: 実施者36人)



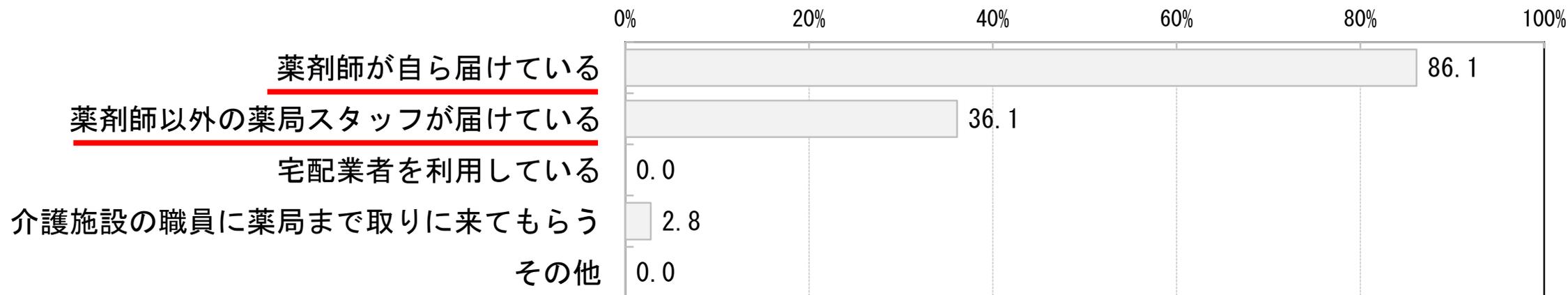
✓ 介護施設向けに薬の処方や服薬指導をしている薬局は全体の1/4弱。

うち、75%は処方箋枚数が全体の15%以下。

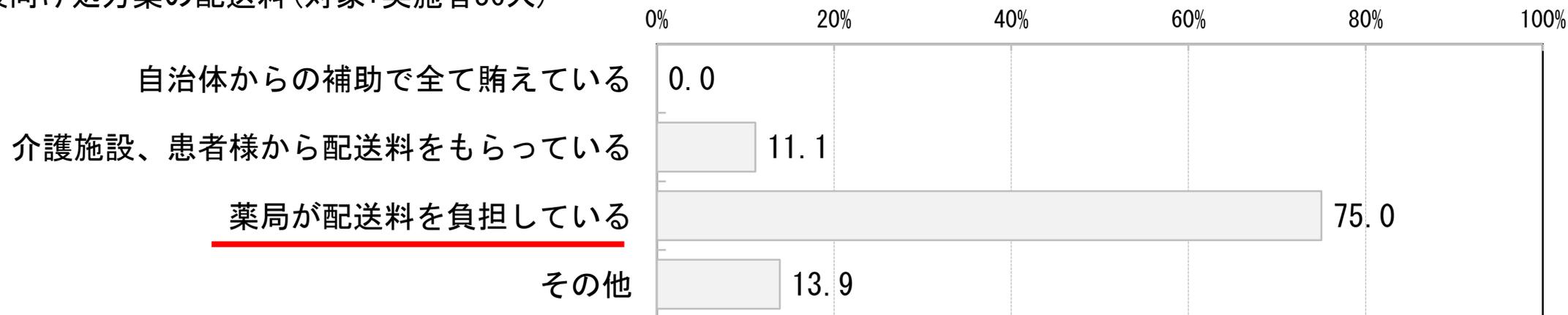
✓ 往診・薬剤お届けのために介護施設を訪問する回数は「ほとんど毎日」が13.9%、「週に1~3度」が36.1%。

# 介護施設に関する項目

## ■介護施設向け処方薬の配達方法(対象:実施者36人)



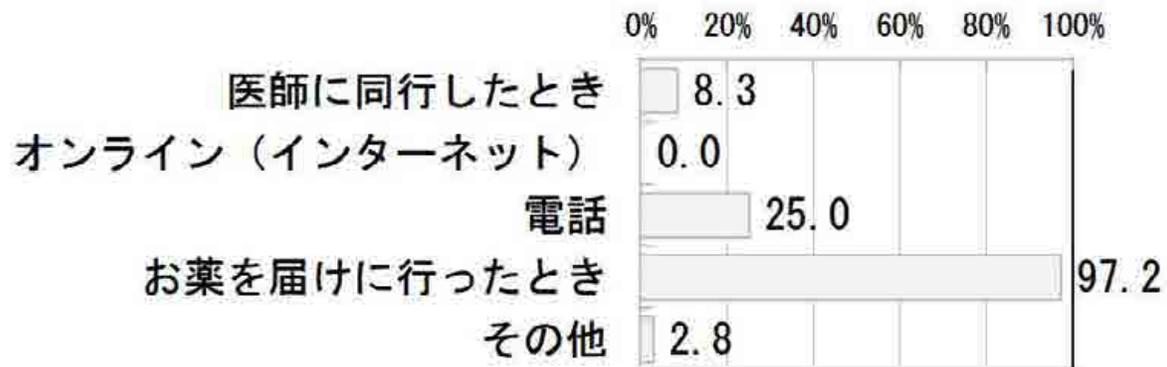
## ■介護施設向け処方薬の配送料(対象:実施者36人)



✓ 介護施設向けにまとめて薬の処方や服薬指導をしている36人によると、**薬剤師・非薬剤師の配達が大半を占めており、75%の薬局が配送料を負担**している。

# 介護施設に関する項目

## ■服薬指導のタイミング(複数選択)(対象:実施者36人)



## ■介護施設向けの処方・服薬指導にて困っている点(複数選択)(実施者:36人)

介護施設の処方箋を集めたいが上手く営業できていない

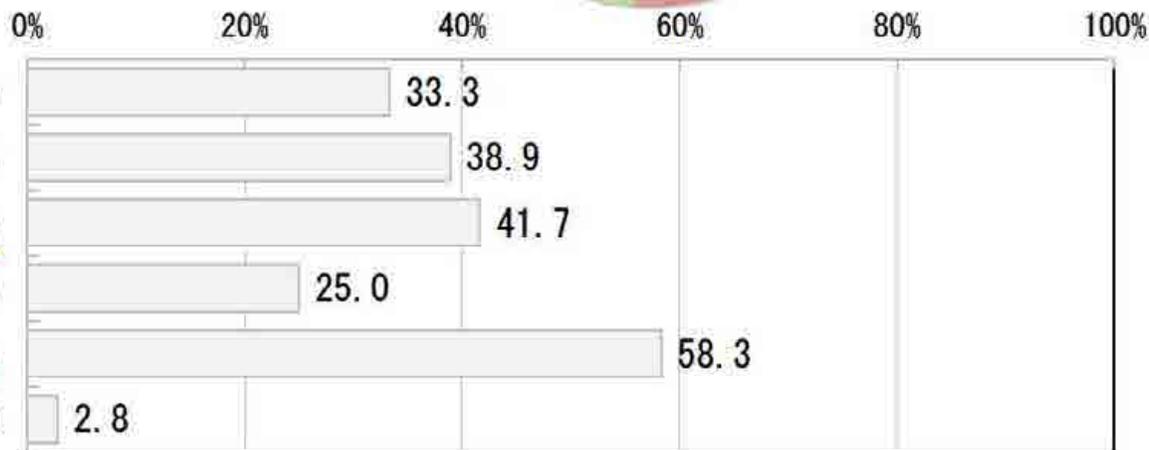
配送にコストや手間がかかる

服薬指導のために施設を訪問する手間がかかる

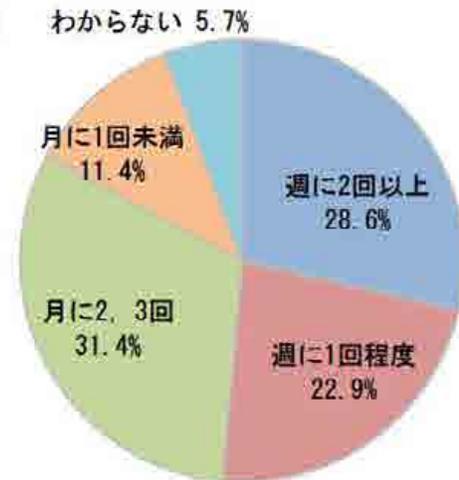
医療機関との連携がうまくいかない

一包化に手間がかかる

その他



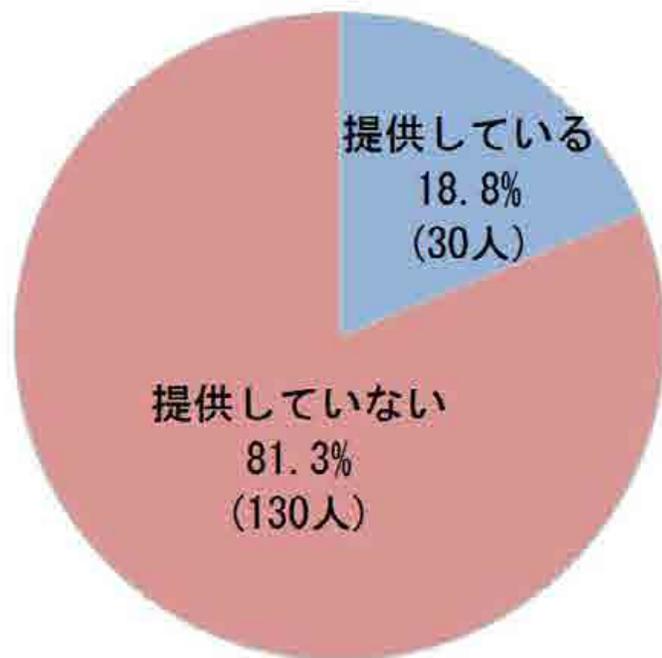
## ■服薬指導のために介護施設を訪問する頻度(複数選択)(対象:左記「医師に同行したとき」「お薬を届けに行ったとき」と回答した35人)



- ✓ 服薬指導のために介護施設を訪問する頻度は週1-2回が半数近くを占めている。
- ✓ 最も手間がかかるのは「一包化」の58.3%、次が「施設訪問」の41.7%。

## 在宅医療に関する項目

■在宅医療用の衛生材料や医療機器を訪問看護ステーションまたは患者自宅へ提供しているか？(対象:160人)



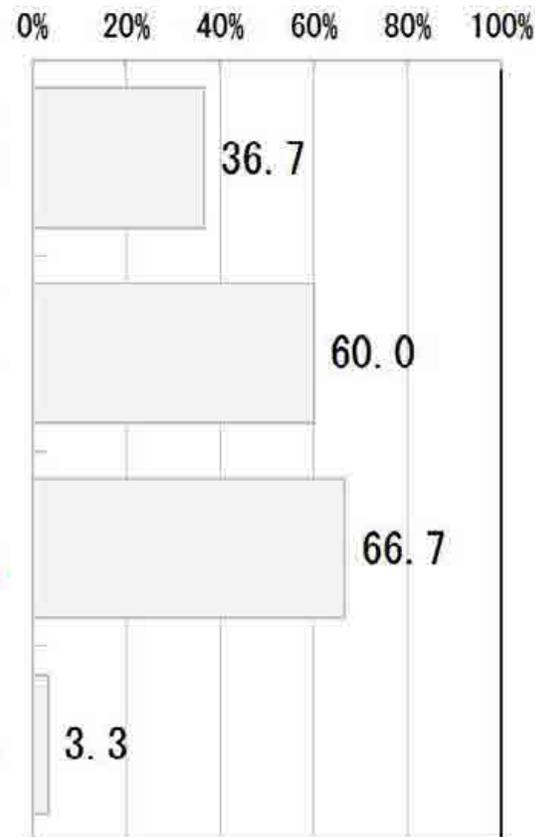
■在宅医療用の衛生材料や医療機器提供において、困っている点(複数選択)(対象:左記提供者30人)

患者宅や訪問看護に衛生材料や医療機器を届けるのが手間になっている

必要な衛生材料や医療機器の量に対して卸からの納入ロットが大きく、不良在庫が増えてしまう

卸からの納品に時間がかかる

その他

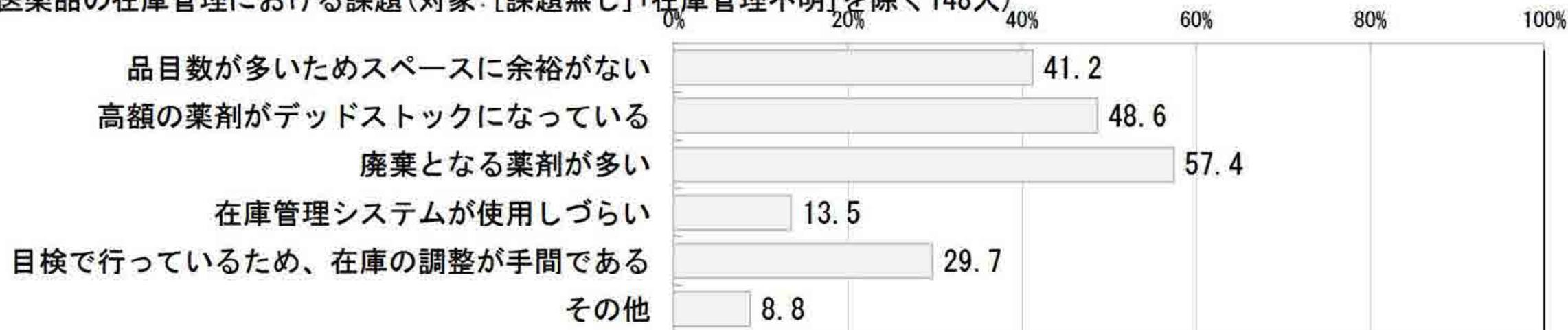


✓在宅医療に医療品を提供しているのは全体の1/5弱。

✓在宅医療に医療品を提供している30人のお困りごとのうち、6割以上は在庫管理や納品の悩み、3割以上が配達の手間。

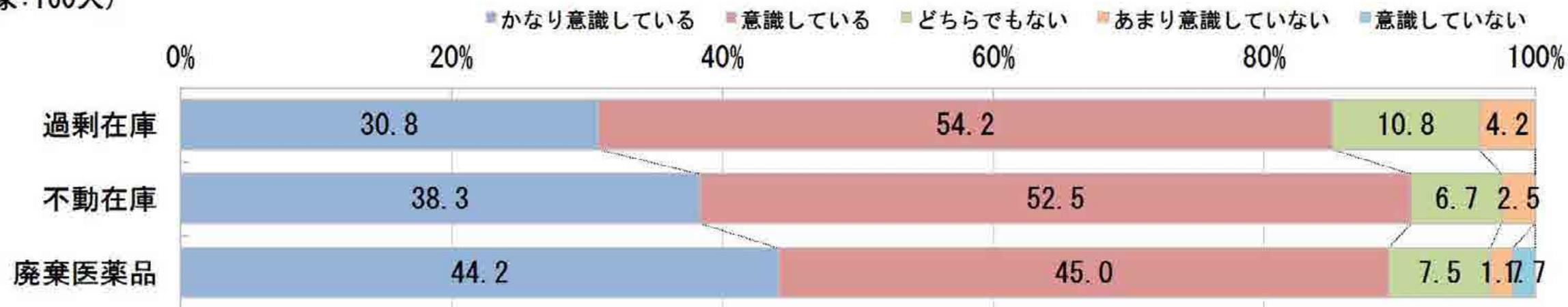
# 在庫管理に関する項目

■ 医薬品の在庫管理における課題(対象:「課題無し」「在庫管理不明」を除く148人)



■ 過剰在庫、不動在庫、廃棄医薬品について、経営上の課題としてどの程度意識しているか。

(対象:160人)



✓ 回答者160人中148人が、ストックやスペース等、なんらかの**在庫管理の課題を抱えている**。

また、57.4%が廃棄となる薬剤が多いと回答。

✓ **85%が過剰在庫を、90.8%が不動在庫を、89.2%が廃棄医薬品を経営上の課題として意識している**。

### (3) 調剤委託に伴う課題の整理

ヒアリングおよびアンケート結果が示す通り、一包化や処方薬の配達、在庫管理等において中小薬局は手間や負担を感じている。一方で、調剤委託の実現には、安心・安全な仕組みづくりが不可欠である。

#### ■ 委託元・委託先における責任の所在の明確化および安全性確保の仕組みづくり

- ヒアリングから：「仕事を限定した方が薬剤師にとってはやいですが、だれが調剤したかわからない薬を説明するには抵抗があるのではないか。」
- アンケート結果から：「調剤委託に関しては、否定的な考えが5割を超え、『外部業者が調剤した薬を患者が服用するのは不安』という意見が7割近くを占めた。不安を取り除くための対策として、『部分委託(薬剤師が確認後に配送)』が62.7%、『薬剤師が委託先の監督責任を負う』が56.9%と高割合を占めた。」

#### ■ 患者様対応の役割分担の明確化

- ヒアリングから：「患者様ごとの細かい対応をどちらが対応するか等の取り決めが必要かと考える。」

#### ■ 委託先の安全管理基準の策定

- 医療安全の観点から、欧州評議会欧州医薬品医療品質部門（EDQM）が発信しているAUTOMATED DOSE DISPENSING (ADD)のようなものの日本版を作成し、その安全管理基準を満たした薬局に調剤委託を許可するような仕組みを検討すべき。